

『平家物語』の章段「扇の的」に登場する武将で、弓矢の名手として知られる那須与一だが、詳しい人物像をご存じだろうか。「扇の的」は源平合戦の時代、香川県高松市の屋島を舞台とした「屋島の戦い」の際に平家方が差し出した扇の的を源氏方武将の那須与一が見事射ぬいたというストーリーで、中学校の教科書に掲載されるほど有名な章段だ。だが、これほど有名であるにもかかわらず、那須与一がどんな人物かは知られていない。

「那須与一は実在しないがモデルはいた」——。那須与一の謎をひもとき、新たな解釈を加えた国学院大学文学部の野中哲照教授(日本中世文学、軍記物語)が、那須家の系図の分析などから与一の実在性を検証した。さらに与一の出身地から物語に込められたメッセージについても考察した。

野中教授は「与一には『反鎌倉・反体制』のメッセージが込められている」とみる。その根拠となるのが、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にも登場する坂東武者たちのヒエラルキーだ。

坂東武者とは、京の都からみて東に位置する坂東八カ国、今の関東生まれの武士を指すが、実際には、中核をなす相模国(神奈川県)、武蔵国(東京都および埼玉県)の武士に、その外縁にある上総国、下総国、安房国、常陸国、上野国、下野国の武士が“次ぐ”存在として位置づけられていたという。与一の出身地である那須は、関東の北辺の下野国(栃木県)の中でも北に位置し、最も辺境の地といえる。「(与一を主人公にしたことで)相模や武蔵の武士ばかりが活躍したわけではないという、反鎌倉幕府や反体制のメッセージが読み取れる」(野中教授)。中面では与一の素顔に迫るとともに、軍記物語を重層的に読み解く、野中教授流の『平家物語』の楽しみ方も紹介する。



ゼロから学んでおきたい『平家物語の世界』

謎多き坂東武者 那須与一の素顔に迫る

「奈良絵本 平家物語」巻十一(国学院大学図書館蔵)

4・5面に関連記事

みはるかすもの

第26回参議院議員選挙が7月10日に行われた。投票率は52・05%と前回の48・80%を上回った▼今回の有権者数は約1億543万人(公示日前日時点)と国民の約8割に選挙権があった計算になる。国民が初めて投票した国政選挙は明治23(1890)年の第1回衆議院議員選挙で、有権者は全人口の1%程度、約45万人だった▼選挙権は「満25歳以上、直接国税15円以上を納める男子」に限られ、大正14(1925)年に納税額の制限は無くなった。だが、女性の選挙権が認められるのはさらに20年後だ▼昭和20年によりやく「満20歳以上のすべ

ての国民」が選挙権を有した。戦後の参院選の過去最高投票率は、昭和55年の第12回選挙で74・54%。今回より20ポイント以上高かった▼国政選挙のたびに投票率低下が叫ばれる。報道などでは若者が投票しない理由を問われ、「どうせ何も変わらない」と回答する場面もあった。18歳選挙権は若者の声を国の未来に生かすためという目的で始まったが、投票率という点では厳しい結果となっている▼世界的な物価の上昇や安全保障問題、SDGsの加速など国内外の状況は大きく変わりつつある。全て私たちの生活に関係することだ。若者に限らず一人一人が、「かつては国政に参加すらできなかった時代がある」ことを思い出し、選挙権の意味を考え直す必要があるのではないだろうか。

夏越の大祓 半年の罪穢れを祓う

夏越の大祓が6月30日、渋谷キャンパス神殿前庭で執行された。佐柳正三理事長をはじめ教職員らが新型コロナウイルス感染症予防対策を講じたうえで参列し、日常を過ごす中で知らず知らずのうちに心身に積もった半年間の罪穢れをお祓いした。

大祓は、大祓詞を奏上し、白紙を人の形に切った人形で体を撫で息を吹きかけ罪穢れを託す、茅の輪をくぐるなどの神事で心身を祓い、無病息災を祈るもの。6月と12月の年2回、宮中をはじめ全国各地の神社で行われており、6月は夏越の大祓、12月は年越の大祓や師走の大祓と呼ばれる。

本学では大祓に際し、事前に渋谷・たまプラーザの両キャンパスで人形とお祓いの作法を記

した用紙を頒布しており、在学生らをはじめ希望者は自宅などでお祓いができる機会を設けている。当日も事前に回収用の箱に託された多くの人形が、神殿前で祓い清められた。



後期授業 9月26日から開始

観光まちづくり学部

木のぬくもり 学修にアクセント 地域を学ぶイベントも



多目的ホールで自修する学生

4月に開設した観光まちづくり学部が学修の拠点としているたまプラーザキャンパス若木21には、教室や研究室のほか、授業やイベント、自修などで利用できるラウンジや多目的ホールがある。ここには、飛騨、天童、旭川、秋田の各地に伝わる木工家具から学部教員がデザインしたベンチまで多彩な木製の机、椅子が並ぶ。木の香

りや製品ごとに異なる手触りが学生たちの学びの場のアクセントになっている。学生たちには、畳敷きのスペースが特に人気だという。木工製品の選定に関わった同学部の椎原晶子教授は「近いうちに家具の特徴などを紹介するボードを設置して地場産業への理解をさらに深めてもらいたい。いずれは学生や教員と産地との交流企画にも取り組んでみたい」と話す。

多目的ホールはイベントスペースとしても活用されている。「デジタルで進めるまちづくり」をテーマに、7月6日に開かれた「観光まちづくりカフェ」では、参加した約60人の教職員、学生らが円卓などを囲んで着席し、講演に耳を傾けた。講演には、北陸初の国家戦略特区「デジタル

田園健康特区」としてデジタルスマートシティを推進する石川県加賀市から政策戦略部長兼最高マーケティングテクノロジー責任者（CMTO）の横堤恒章氏が講師として来校。人口減少が進む市の課題と、生き残りをかけたスマートシティの推進について先進テクノロジーの導入や行政、産業、教育での人材育成に重点を置いて紹介した。スマートシティを推進する市役所の意識改革では「固定された考え方を変えていくためには、ゴールを理解してもらうために言い続けることと相互のコミュニケーションが大事だ」とし、今後、IT人材の不足が見込まれることから「独自に人材育成をし、プログラミングなどの内製化も目指したい」と話した。



学生、教職員を前に講演する横堤恒章氏

成績優秀者奨学制度 令和4年度は56人を表彰



国学院大学は、令和4年度の成績優秀者奨学制度の対象者56人を決定した。この制度は前年度で特に優れた学業成績を修めた学生を表彰し、能力向上と勉学を奨励するもの。

表彰式は6月23、30日に渋谷キャンパス（文・経済・法・神道文化学部）で、29日にたまプラーザキャンパス（人間開発学部）で行われた。23日の文・神道文化学部表彰式では、矢部健太郎文学部長、西岡和彦神道文化学部長が学生の努力を称え、一人一人に表彰状を授与した。奨学生を代表し三浦真依さん（哲4）は「熱中できる学問に出会えた。4年間の集大成として卒業論文に取り組む」、西松里紗さん（神文4）は「先生方のおかげで学びを追究できた。卒業後は大学院で一層、探究したい」と感謝と決意を述べた。

観光まちづくり学部 香取市佐原地区の 観光まちづくりで連携協定



国学院大学観光まちづくり学部と地域マネジメント研究センターは特定非営利活動法人佐原アカデミアと6月29日、同法人を窓口として千葉県香取市佐原地区が保有する観光まちづくりに関する知識や経験などと学部などが保有する知的財産、人材、技能などを生かし、観光まちづくりの分野で連携・協力することに合意し、基本協定を締結した。

たまプラーザキャンパスで行われた締結式では、西村幸夫学部長＝写真右＝と大矢野修理事長＝同左＝が協定書に署名。「佐原のように頑張っている地域から学んで、日本全体が魅力的になっていくように進めていきたい」（西村学部長）、「協定締結は心強く、それに応えられるようにまちづくり、まちおこしに取り組んでいきたい」（大矢野理事長）と今後の連携強化に意欲を語った。

学部では同地区を、来年度以降に開講する予定の「観光まちづくり演習」や「観光まちづくりインターンシップ」でのフィールドワークの候補地として検討している。

町田樹助教企画・出演番組 衛星放送協会番組アワード 2年連続での受賞

町田樹人間開発学部助教が企画、出演する「町田樹のスポーツアカデミア【特別編】～アーティストとアスリートの身体・精神論～音楽家 反田恭平」が、第12回衛星放送協会オリジナル番組アワードの文化・教養部門で最優秀賞を受賞した。

この賞は、一般社団法人衛星放送協会に所属する約80社の制作番組から特に優れた番組に贈られるもの。元フィギュアスケーターである町田助教と著名な音楽家の反田氏がそれぞれの立場から、身体・精神に対する体験や実践へ洞察を深めた点が評価された。

学問ノ道

第44回

創立140周年と松野勇雄の事績

明治15年の皇典講究所の創立にはじまる本学の歴史において、草創期の維持・発展に尽力した人物に松野勇雄がいる。

松野は備後国（現・広島県）出身の国学者であり、神道事務局生徒寮や神宮教院本教館といった神道・国学に関する教育研究機関の創設・運営に携わった。かかる実績により、皇典講究所の創立に際して創建係に任ぜられた。

草創期の皇典講究所において松野は、所外のさまざまな要職にあつて多忙中の穴野半幹事を補佐する幹事補を務め、17年より正式に幹事の任に就いて名実ともに運営の中枢を担った。しかし経営状況は困難を極め、翌18年に初代総裁である有栖川宮饒仁親王の命を受け、本所創立の趣旨を周知すべく自ら地方を歴巡している。

明治20年代に入り、憲法作成・議会開設に臨み日本文化を改めて



松野勇雄

重要視する風潮の高まりを背景に、初代所長に就任した山田顕義の主導で23年に国学院を設立することになった。この時松野は山田を助けて実務の中枢を担い、「国学院設立趣意書」の原案を作成した。同趣意書には「国史・国文・国法」を主軸に日本文化に関する研究教育を基本に据えることが謳われた。ここで松野が説いた「国法」の理念は、桑原芳樹、さらに松尾三郎へと受け継がれ、昭和38年に創立80周年記念として法学部の開設を導くことになった。

草創期の学問的事業の中で、『国学院雑誌』に先行する『日本文学』の発刊と、皇典講究所における『古事類苑』編纂事業は松野が中心となって果たしたものである。また、国学院での「日本道義」の講義は松野自らが担当した。このような本学をはじめ神道・国学に関する学校運営・教育事業に一貫して従事した松野の活動を通じて後進の育成が果たされ、日本文化に関する各学問分野で活躍し、あるいは神道界の発展に寄与する人材が多数輩出されたのである。

明治25年の山田の急逝により、

大学院WEB進学相談会 首都圏外からや社会人も参加

国学院大学大学院のWEB進学相談会が7月2日に開催され、約110人の進学希望者が参加した。

佐藤長門大学院委員長による開会のあいさつに続き、文・法・経済学の各研究科担当教員による研究科紹介や専攻、コースの特徴について説明が行われた。全体説明ののち、希望者に対しては個別相談の時間も設けられ、進学希望者からは進学後の研究環境や入試対策などについて質問が寄せられ、教職員らが応じた。

WEBでの開催は令和2年度から行われ今回が3回目。大学院事務課の担当者によると、首都圏以外の居住者や社会人などの参加が徐々に増えているという。

七夕に和装デー開催 キャンパスの夏を彩る



五節句の一つである七夕の日、7月7日に渋谷、たまプラーザの両キャンパスで日本文化を体験してもらう機会として和装デーが開催された。

7月1日から7日までは猛暑の中でも涼を感じてもらおうとさまざまな模様の風鈴が飾られ、涼しげな音色でキャンパスの夏に彩りを添えた。また、笹飾りも用意され、多くの学生らが短冊に願いを込めながら結びつける様子が見受けられた。当日は浴衣の着付け講習会が行われ、男女問わず多くの学生が浴衣姿で授業を受けるなどキャンパスでの時間を楽しんだ＝写真。

国学院大学附属幼稚園 園児らが渋谷キャンパスを訪問



国学院大学附属幼稚園（東京都杉並区）の園児ら約30人が7月8日、園外保育の一環として渋谷キャンパスを訪れた。

一行はまず手水の作法などを教わり神殿を参拝。続く博物館見学では、園児が楽しめるようにと展示品にまつわるクイズ形式のスタンプラリーが用意された。園児は問題が書かれた冊子を手に、土偶や土器、勾玉などの展示品を見学＝写真。答えを集め終わり記念スタンプが冊子に押されると笑顔をみせた。

昼食休憩では学生食堂で園児向けの特別ランチが用意され、周囲の在学生らも園児の楽しむ様子を見て顔を綻ばせた。他にも全学応援団によるリーダー公開も行われ、在学生との交流も持たれた。最後は大学マスコットキャラクターのこくびよんからの見送りを受け、渋谷キャンパスを後にした。

左から池田教授、小野氏、小島氏



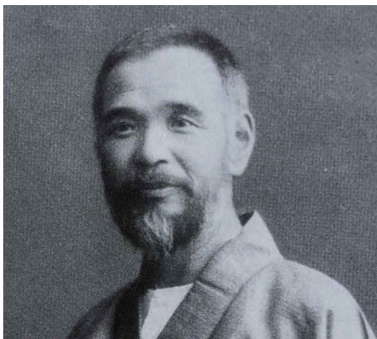
国学院大学研究開発推進機構は7月2日、第47回「日本文化を知る講座『沖縄復帰50年 歴史・文化・沖縄学』」を渋谷キャンパスで開催した。今回の講座は、今年が沖縄の本土復帰50年にあたることから沖縄の歴史や文化、沖縄学をテーマとし、本学博物館の企画展「琉球・沖縄」と国学院」との関連イベントとして実施した。学生や研究者、一般の参加者ら約120人は、琉球・沖縄に関する新たな研究成果発表を約3時間半にわたり熱心に聞き入った。

はじめに研究開発推進機構の池田榮史教授が「琉球・沖縄の歴史」と題し、琉球・沖縄の歴史、文化研究のパラダイムがいかに形成されたか、さらには研究者の問題意識など、手法も含めた近年の研究動向を総合的に解説した。次いで国立歴史民俗博物館の小野正敏名誉教授が、「宮古・八重山の文化」と題して講演。小野氏は八重山の集落遺跡には沖縄本島にみられる高い石垣で囲まれた「グスク」がないことから、中世に琉球王国とは異なる文化圏が形成されていた可能性があるとの考えを示し、中世の先島諸島の実像に迫ることで、琉球史の新たな側面を浮かび上がらせた。続いて院友で神話・民俗学者の小島璣（れい）琉球大学名誉教授（昭33卒・66期文、昭38満退・71期博文他）が「上代語『苗（なへ）』（稲）が生きている琉球方言」と題し、上代日本語で稲を意味する「苗（なへ）」が、「マイナイ」という形で琉球諸島でも用いられていた可能性があり、上代の「なへ」が底流で琉球方言とも繋がっているとの研究成果をユーモアを交えて解説した。

この後、3氏は琉球・沖縄の歴史、文化研究の現代的な意義なども含めて意見を交換し、司会進行役の池田教授は、現在に至るまで本学の研究者らが沖縄学に携わっていることに触れ「琉球王国の内部発展説には、日本の古典との関係を説明できないという問題点がある。従って琉球の変遷過程を引き続き把握し、再構築することが研究者には求められている」と締めくくった。

本学は、柳田國男や折口信夫をはじめ多くの関係者が沖縄研究に貢献し、戦後の琉球大学設立時も数多くの院友が教職員として勤めるなど沖縄学の発展に深く関係している。

田島利三郎の業績—『おもろさうし』の発見



田島利三郎（山下重一解題『琉球文学研究』より）

このたび、波照間永吉氏を委員長とする編集刊行委員会から『琉球文学大系』全35巻の刊行（ゆまに書房）が始まった。その内容は古典歌謡である『おもろさうし』、琉球古語の辞典『混効験集』、歴史史料である『球陽』『中山世鑑』『琉球国由来記』、さらには琉球民俗関係資料などにも及ぶ画期的な大系本である。名桜大学創立25周年などの記念事業で、最新の研究に基づく琉球の文学・歴史・民俗資料の集大成といえる。

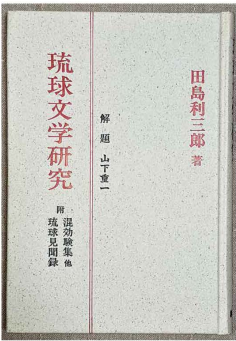
今、こうした大系本の集成を可能とする一つに、明治24（1891）年7月に皇典講究所を卒業し、26年4月に沖縄県立尋常中学校（現沖縄県立首里高校）国語科教師となった田島利三郎（明治3年7月2日新潟県生―昭和4年9月5日没）の業績がある。卒業時に神職学階の「三等司業」を授けられたが神職には就かず沖縄に赴いたのは、琉球の師範学校教師をしていた皇典講究所の学友から琉球には現地の言葉による50巻ほどの文書があるが、その研究は行われていないと聞いたことによるという。田島は、これを聞いてから在京の琉球・沖縄研究者を訪ねており、沖縄の言語、文学などの研究を目的に沖縄に渡することを決意したようである。

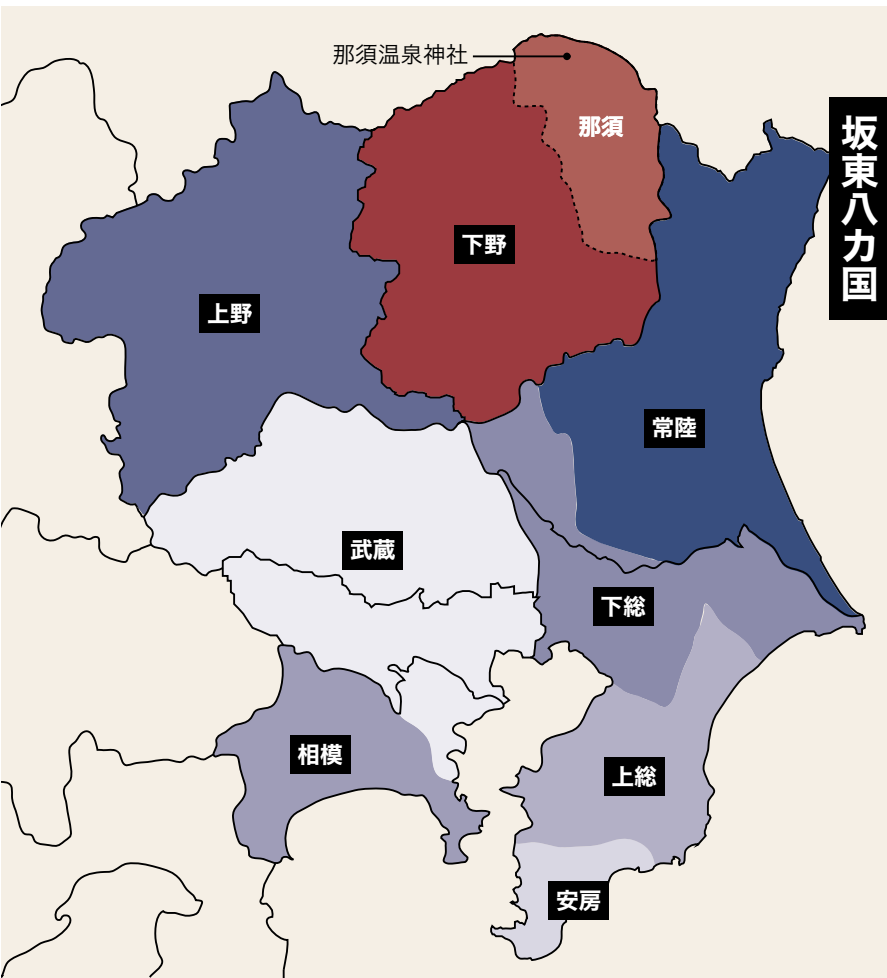
尋常中学校教師の職は、校長との教育理念の対立から教頭とともに明治28年10月に依願免職に追い込まれ、30年には沖縄を去ることになるが、中学校で教えた生徒の一人が後に沖縄学の父と呼ばれる伊波普猷であった。伊波らも教頭と田島の罷免への抗議行動から退学処分となるが、田島は、沖縄で調査し筆耕した琉球語による文書を『語学材料』の標題でつづり、後にこの大半を東京帝国大学文科大に在学していた伊波に託している。

この中に『おもろさうし』全巻の写本や『混効験集』などがある。圧巻の写しである『おもろさうし』は、現在は失われている安仁屋本で、その価値は高い。田島が残した琉球研究資料は、伊波普猷を琉球研究に進ませることになる。『おもろさうし』研究は田島から伊波へ、そして尚家本も加えて仲原善忠、外間守善、玉城政美らに引き継がれ、今次の『琉球文学大系』1「おもろさうし 上」（波照間永吉校注）へと繋がる。波照間氏は解説のなかで「田島本」を取り上げて詳細な検討を加えている。

伊波に託された田島資料は、現在は琉球大学図書館伊波文庫に所蔵され、田島の著作は大正13年7月に伊波普猷編で『琉球文学研究』として刊行されている。折口信夫も「伊波学の後継者を待つ」で田島に触れているが、初版『琉球文学研究』は、後に本学の故山下重一名誉教授によつて、いくつかの田島著作と詳細な田島の事績を含む解題を加えた復刻版『琉球文学研究』となつている＝写真右。山下先生は、梧陰文庫資料とともに琉球・沖縄史研究を進められ、その一環で田島利三郎研究を行われた。

文学部教授 小川直之





平家物語には、非正統の鎌倉方武士たちが活躍する章段が多い。NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の舞台である相模の武士ばかりが活躍したわけではないという、反体制のメッセージが読み取れる。

また、与一(余一)という名前からも「十余り」、すなわち十一男で長男や次男、三男という嫡流格の子ではない末端性がうかがえる。加えて、与一の乗る馬の鞍に描かれた家紋の「丸ばや」は、大木に寄生する灌木のヤドリギ『写真左』で、末端性を表しているという。

坂東武者たちのヒエラルキー

「那須与一は実在しないが、モデルはいない」と。これが野中教授の見解だ。この結論づける材料になったのが那須氏の系図『群書類従 那須系図』と『玉燭宝典 那須系図』の分析だ。系図では与一とその子ども、2代続けて実子がなく、養子で繋いでいる。「他に血縁がある兄弟がいるにもかかわらず、血縁のない養子をもらい、跡継ぎにさせている系図に不自然さがある」(野中教授)。「玉燭宝典 那須系図」にも与一の名前は無いという。

では、与一のモデルは誰なのだろうか。野中教授は那須光助(生没年不明)の名を挙げる。光助は建久4(1193)年、源頼朝が那須野で狩りをした時に、現地(栃木県大田原市)での案内役として活躍した弓馬が堪能な武将だ。鎌倉時代に成立した『吾妻鏡』には源頼朝が那須野で狩りを催した時に、光助が案内役を務めたことが記されている。野中教授は「光助は大田原市北金丸あたりの出身で、壮年後、那珂川水系の一級河川である常川の流域に拠点を移したとみられる。宇都宮氏、小山氏といった周辺の大名とは違い、必死に豊かになろうとした開拓領主だったのでは」と語る。

平家方と源氏方の屋島でのいくさ(屋島の戦い)は、決着がつかないうちに日没を迎えた。源義経(1159~1189年)が撤退しようとしたその時、沖のほうから立派に飾った小船が漕ぎよせてきて、平家の女房が扇を舟の上に立て、手招いた。義経は、那須与一に掲げられた的を射落すように命じる。与一は鎗矢を取って弓につがえ、那須温泉大明神(那須温泉神社)に必中を祈念し、十分に引き絞ってから射放した。

160~190もの章段がある平家物語の中でも特に有名な「扇的」で活躍する那須与一だが、その素顔は意外と知られていない。どんな人物だったのか。謎多きその素顔に国学院大学文学部の野中哲照教授(日本中世文学、軍記物語)が迫った。

与一のモデル、光助の活躍

那須与一は存在しなかった？ 系図から読み解く平家物語の楽しみ方

ゼロから学んでおきたい『平家物語の世界』



「扇的」の意味があった

野中教授は「扇的」には他にも興味深い点があると指摘する。たとえば平家はどんな意図で「扇的」を出したのかという点だ。

野中教授は「いくさ占いのために出されたものだと考えられる」とみる。そう考えられる根拠になるのが「扇的」のそばに立つ女房の装束と、扇の色柄だ。

女房の装束は上がほぼ白、下が赤に見える衣装で、今の巫女のようなイメージである。扇の色柄も、一般的な宮廷女房の持つものではなく、赤地に金箔の日輪を押したもので、年始の祝儀など神事で用いられるもので「巫女のような格好をした女房が、神事でも、神事で用いるものだ。戦で使われる征矢に比べ、鎗矢は先端に重心が偏り、横風の影響を受けやすい」という不利な点がある。不利な鎗矢を用いなければならなかったのはいくさ占いだからだ。

「この意味が分かることで、読み手は与一が追い込まれた切迫感やプレッシャーを受け止めることができる。与一が「扇的」を射たからこそ、源氏がいくさ神の加護を引き寄せ、源平合戦で勝利したのだという重要なメッセージを受け取ることができる」(野中教授)

敵の平家が与一の射扇を称えたのは3回繰り返さる構造のため

野中教授は「那須与一」は対読者意識の強い物語で、読者に緊張を強いて、緩ませる、また緊張を強いて、緩ませるといった読者心理を3回繰り返さる構造になっている。物語の最後に緊張状態から読者を解放する必要がある」と解説する。敵である平家が与一を称えるのは内部論理としては不自然だが、「源氏神話」として成り立たせるために、平家にも祝祭に参加させているのだ。野中教授は「読者を幸せな気分にする(解放)ため」と話す。



随所に書き込みがされた野中教授の研究ノート

ドラマと同じ「V字型」で、軍記物語は楽しめる

野中教授は軍記物語の研究の道を志したのは、早稲田大学時代に、国文学者の梶原正昭・名誉教授(故人)に師事したことがきっかけという。

梶原氏の平家物語の章段を解説する講義は、多くの学生を引き付け、感動し涙する学生もいたほどだったという。野中教授は「2年続けて同じ講義を受けても、そのたびごとに気付きのある名講義だった。国文学の研究の道に進みたいと思うきっかけになった」と振り返る。大学院の博士課程でも梶原氏の研究室に助手として在籍した。軍記物語も映画やドラマと同じで日常の中で事件やトラブルが起これば落ちて(刺激)、その後、解決する(安定)という「V字型」の展開が多く、ハラハラしながらストーリーを追える楽しみ方があるという。新著「那須与一の謎を解く」(武蔵野書院)には一般の人にも読んでほしいという思いで、イラストや図表を多くつけて、分かりやすい構成にしている。

野中教授は「軍事が好きだから軍記物語を研究している」と思われることがあるが、それは違う。平家物語は人の情けやいくさの異常性について描かれている部分がたくさんある。平和について考えるために軍記物語を研究している」と締めくくった。



野中教授の他の記事は国学院大学メディアへ

「人間が生み出し続けてきた歴史の物語とは～野中先生が軍記物語を紐解くわけ～」



今までの学報に掲載した「ゼロから学ぶ」シリーズも掲載しています。

「ゼロから学んでおきたい『戦国時代』
—人口爆発、豊かになった日本—
文学部教授 矢部健太郎



「ゼロから学んでおきたい『古墳』
—東アジアと連動していた百舌鳥・古市古墳群—
文学部教授 青木敬



インフォダイジェスト

… 在学生 … 保護者 … 卒業生 … 一般 … 受験生
内容 日にち 時間 場所 対象 申し込み 料金 問い合わせ

大学からのお知らせ

夏季休暇中の事務休止日および事務取扱時間について

下記の期間、大学事務を休止します（一部変則あり）。夏季休暇中の開室日・事務取扱時間の詳細は、大学HP（QRコード）で確認してください。
7月25日～9月24日の（土）・（日）・（祝）、8月9日（火）～22日（月）



後期授業開始について

学部・専攻科・別科・大学院の後期授業開始は9月26日（月）です。学年暦については学生生活ハンドブックや大学HPで確認してください。

令和5年度 大学院秋季入試

国学院大学大学院では、別表の日程で令和5年度の秋季入試を実施します。詳細は、大学院HP（QRコード）で確認を。
大学院事務課（☎03・5466・0142）



大学院 令和5年度秋季入試日程

研究科	区分	専攻	募集人員	願書受付期間	試験日・合格発表	手続期間
文学	前期	一般	神道学・宗教学 10名	8月26日（金）～9月8日（木）	【試験日】 10月1日（土） （口述試験） 【合格発表】 10月5日（火）	【一次手続】 10月12日（火）～18日（火） 【二次手続】 令和5年2月25日（土）～3月4日（土）
			文学 15名			
			史学 20名			
		外国人	神道学・宗教学 若干名			
			文学 若干名			
			史学 若干名			
	後期	学内成績選考※1	神道学・宗教学 若干名		【試験日】 10月5日（火） （口述試験） 【合格発表】 10月8日（土）	
			文学 若干名			
			史学 若干名			
		社会人	神道学・宗教学 若干名			
			文学 若干名			
			史学 若干名			
法学	前期	一般	神道学・宗教学 若干名	8月26日（金）～9月8日（木）	【試験日】 10月5日（火） （口述試験） 【合格発表】 10月8日（土）	
		外国人	文学 若干名			
		学内論文選考※2	史学 若干名			
	後期	学内成績選考※2	神道学・宗教学 若干名		【試験日】 9月24日（土） 【合格発表】 9月28日（火）	【一次手続】 10月1日（土）～7日（金） 【二次手続】 令和5年2月25日（土）～3月4日（土）
		社会人	文学 若干名			
		学内推薦	史学 若干名			
経済学	前期	一般	神道学・宗教学 若干名		【試験日】 9月24日（土） 【合格発表】 9月28日（火）	
		外国人	文学 若干名			
		学内推薦	史学 若干名			
	後期	学内論文選考※2	神道学・宗教学 若干名			
		学内成績選考※2	文学 若干名			
		社会人	史学 若干名			

※1 本学文学部4年生に限る ※2 本学法学部3年生または卒業見込みの者に限る

新型コロナ関連のお知らせ

陽性／濃厚接触の場合は報告を

新型コロナウイルス感染症に陽性／濃厚接触となった場合は以下の報告フォームに入力してください。必要に応じ保健室から電話で詳細を確認します。

〔本学HP〕▷〔在学生〕▷〔学生生活支援〕▷〔保健室〕▷〔登校停止感染症の手続き〕▷〔報告フォーム〕



博物館

料無料
時最新の開館日、時間は博物館HPでご確認ください。
※博物館への問い合わせは☎03・5466・0359

国学院大学創立140周年記念企画展「近代工芸の精華－有栖川宮家・高松宮家の名品と金子皓彦寄木細工コレクション－」

有栖川宮家の祭祀を継承された高松宮宣仁親王妃喜久子殿下のご高配により、本学では有栖川宮家ならびに高松宮家ゆかりの品々を収蔵しています。この両家伝来の品々に加え、寄木細工の世界的コレクターでもある院友の金子皓彦氏のコレクションも併せて展示し、明治期に輝いた日本の精微で壮麗な近代工芸の数々をご覧ください。詳細は本学博物館HP（QRコード）をご覧ください。
8月31日（水）～11月6日（日）
博物館企画展示室・校史展示室



キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行って下さい

第1回求人フェア

新卒応援ハローワークや専門の人材紹介会社による対面の求人紹介イベントです。皆さんの就活状況に応じた情報提供、個人面談も実施します。
8月3日（水）13時～、14時40分～（各回90分）
4年生

公務員志望者専用個別面談

公務員志望者を対象にオンラインで個別面談を行い、試験に対する情報提供や実力強化を行います。本番を想定した1対1の面接指導から受験する自治体、団体に関する相談まで不安や疑問点をなんでも相談してください。
8月5日（金）
2～3年生

「支持待ち世代」(?!)

「尊在感」づくりを



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

「支持待ち世代」というのは、「指示待ち世代」の間違いではないのか。そんな読者の声がかえそう。しかし、今の学生たちは、保護者世代以上に、他者から承認されること、誰かが自分を支持してくれることを求めているのです。こうした「支持」への欲求を諦めたふりをする学生も見受けられます。しかし、多くの若者は、とりわけ個人主義的競争社会の中で、どちらかと言えば犠牲になった子どもでもあるのです。人間開発学部の必須科目「教育の原理」の最初の授業で、自分の過去の「振り返り」を求める課題を出しました。次は、その回答の一つです。「いじめ、いじめと社会は問題にしています。私が、私たちこそ、日本の競争的学歴主義の中でいじめられてきたのです」入学課の依頼で訪問した出前講座先の高校で、潜在的な能力を引き出す「人間開発」の意味に関する講話をしました。その後、生徒と一緒に講話を聞いてくれた担当教師



が告白してくれました。ある時、「光が当たるのは、この中の上位3分の1の成績の子だけだ。残り光が当たらない」とげきを飛ばしたそうです。教師は受験に向けて励ますつもりだったのです。ですが、一人の女子生徒が言い放ったそうです。「でも、誰かが上に上がれば、誰かが下に落ちて、光が当たらなくなるのでしょ」と。中学生を対象に自己肯定、自己否定と成績との相関を調べる「自己認識調査」を実施しました。仮説では、成績と自己肯定感とは相関、でした。しかし、結果はそうありませんでした。5段階評価法で言えば「3」の中位の生徒が、一番自己否定的だったのです。むしろ、成績が2、1の生徒の方が、自己肯定感が高かったのです。本調査で「自己肯定」とは、「親が（先生が）話を聞いてくれる」「親が（先生が）期待してくれている」など、17項目です。「自己否定」は、それらが「いいえ」です。「普通の子（日本の標

団体・個人の成績

陸上競技部＝第38回U20日本陸上競技選手権大会が6月9日から6月12日に国立競技場（東京都新宿区）で行われ、男子5000mで青木瑠郁選手（健体1）が13分59秒34の自己新記録で2位となった。

蹴球部＝東京都大学サッカーリーグ戦1部に所属する同部は、延期となった試合を除き第12節が終了した7月15日時点で6勝5敗・勝点18、全12大学中5位となっている。

ソフトテニス部＝第73回関東ソフトテニス選手権大会（ダブルス）がサニーテニスコート（千葉県白子町）で行われ、男子の西本一雅選手（健体3）・金井亮太選手（観まち1）ペア、女子の久保田茜選手（日文2）・原千晴選手（中文2）ペア、寺澤佑珠妃選手（日文1）・高嶺心萌選手（中文1）ペアがそれぞれベスト8となった。

卓球部＝関東学生卓球選手権大会が6月14～16日に所沢市民体育館（埼玉県所沢市）で行われ、女子シングルスで加賀美恵奈選手（神文1）がベスト8、高橋沙希選手（法4）がベスト16となった。

強化部会の主なスケジュール

硬式野球部＝東都大学野球秋季1部リーグ・対青山学院大学戦（①9月3日(土)・県営あづま球場〈福島県福島市〉、②9月4日(日)・ヨーク開成山スタジアム〈福島県郡山市〉）

柔道部＝男子41回・女子38回東京学生柔道体重別選手権大会（9月4日(日)・講道館〈東京都文京区〉）、全日本ジュニア柔道体重別選手権大会（9月10日(土)、11日(日)・埼玉県立武道館〈埼玉県上尾市〉）

ソフトテニス部

「勝たなきゃ」ではなく「勝ちたい」
女子2年生トリオ
久保田選手(日文2)・庄司選手(初教2)・原選手(中文2)

念願の関東大学リーグ1部昇格を果たした国学院大学ソフトテニス部女子の主力は、コロナ禍に直面し続けた2年生トリオだ。高校最後の年に全国大会が軒並み中止され、大学1年次には1部との入れ替え戦も見送られ夢への道が絶たれた。先輩が紡いできた「昇格の夢」を織り上げた庄司琴里（初教2）、久保田茜（日文2）、原千晴（中文2）の3選手にテニスへの思いを聞いた。

3選手とも小学校低学年までにはテニスボールに慣れ親しみ、「中学時代は地元（群馬県）で負け知らず」（久保田選手）で実績を重ねた。強豪高校で切磋琢磨し、1部まであと一歩と迫っていた同部に入部。1年次から団体戦のレギュラーに抜擢され、「チームから『任されている、頼られている』と感じてコートに立った」（庄司選手）と、高校時代までとは違う大学テニスの世界に驚きつつも「練習も試合の流れも自分たちで考え組み立てられる面白さ」（原選手）と「自主性」という新たな武器も手に入れた。

全国レベルで活躍した後輩を迎えた春季リーグでチャンスが巡ってきた。「戦力は整ったが、昇格は簡単ではない」との小杉誠監督（昭和53卒・86期法）の予測を覆して順調に勝ち進み、ライバル・立教大学との無敗対決も濱島怜奈選手（初教1）と組む庄司ペアが先勝し、久保田・原ペアで仕留めるという今季の常勝パターンで押す展開。結果はリーグ全勝で2部を制し、慶応義塾大学との入れ替え戦にも勝利を収め念願の1部昇格を決めた。2部優勝の勢いに乗り、久保田・原ペアは関東大学ダブルス選手権で優勝、134ペア



1部昇格の主力を担った原選手・庄司選手・久保田選手（左から）

の頂点に立つという同部初の快挙も成し遂げた。9月以降には全日本学生選手権大会（インカレ）や秋季リーグが待ち受ける。原選手は前衛を担当し、巧みなスマッシュに加え、試合の流れを読み相手のプレーを封じるポジション取りが特長。後衛の久保田選手は、どのようなボールも対応できる俊足と試合全体をコントロールして前衛を生かす試合巧者だ。日本ソフトテニス連盟のU20チームにも選ばれる庄司選手は、速く強力な打球に加え、大きく曲がるカットサーブにフォアハンドと比肩する強力なバックハンドが武器。それぞれ選手としての強みが異なるからこそ、お互いを生かせると3人は語る。

互いに認め合う2年生トリオが「高校時代は強豪校だったからこそ『勝たなきゃいけない』と重圧を感じる時もあった。今なら自分とチームのために『勝ちたい』と思えるテニスができる」（久保田選手）との思いを秘め、1部での挑戦が始まる。

インタビューの詳細は「国学院大学メディア」で公開中



やぎした・けいいちろう 平成31年国学院大学文学部史学科日本史学コース卒業、横浜市出身。在学時には学生アドバイザーとして学報編集、ラジオ出演、イベント企画などを経験。クラフトビールメーカー「ヤッホーブルーイング」で通販部門に所属し、マーケティングや製品開発に取り組む。

史学科の後輩には、「学びで得たものは歴史に関わる仕事以外にも生きる」と伝えたい。「歴史上の事象に向き合い思いをはせ、感情移入した経験」は、自分の仕事の先にある事象を考える力に繋がります。多様な仕事に生かすことができます。（談）

ヤッホーのクラフトビールは味わいも色も香りも個性的なものばかり。気分や好みに合ったビールを自宅などでも楽しんでもらえるものなので、コロナ禍でも「ちょっとした息抜き、ご褒美」の時間に選んでいただいている。所属する通販部門の業績を見ても、飲み需要の伸びは明らかだ。クラフトビール人気の背景にはビールを楽しむスタイルの「多様化」がある。個性的なクラフトビールの味わいは、乾杯の人数や時間、場所に縛られないさまざまな楽し

みをもたらした。これまで画一的なビールが大半を占めていた日本の市場に、新しいビール文化を切り開いたのだ。ヤッホーでは「ビールに味を！人生に幸せを！」というミッションを掲げる。ビールの開発やプロモーションのプロジェクには、部門にかかわらず参加することができ、多様な視点を交えての議論するのが常だ。「知的な変わり者」の融合が新たなビールの文化や楽しみ方を生み出す原動力になると歓迎される。私の史学科での「過去の事象や人々の暮らしに思いをはせる」経験も、お客様がヤッホーのビールとともに過ごす時間への感情移入に生きているし、歴史を学んだ身として、自分たちで0からビールやファンコミュニティの歴史を創り出していくことに面白さを感じている。

元々は社会科の教員を目指して国学院大学に入学したが、3年次に「歴史が好きなきことと歴史を教えることは違う」と思い進路変更した。卒業論では、所属ゼミの柴田紳一教授のアドバイスをもらって地元・横浜とビールをキーワードに西洋文化の伝播を探った。今ではその研究成果を基に日本のビール文化、歴史的背景など一歩深い点を起点とした話を、ファンの方に伝えることができていると自負している。広報団体の学生アドバイザーとして学報編集などを経験したことも現職に繋がっている。記事を書くに当たり「読者は何を求めているのか」を考えたことは、今の仕事で「お客様が欲しているのは何か」を模索することに通じる。紙面レイアウトの工夫を考え、実現させた経験も「個性」が求められる今の仕事に生きている。

コロナ禍で再び注目を集めるクラフトビール。「よなよなエール」などを手掛けるクラフトビール最大手「ヤッホーブルーイング」（長野県軽井沢町）に勤務する柳下桂一郎さん（平31卒・127期史）は、「物事に思いをはせ、感情移入しやすい史学脳」を「知的な変わり者」を求める社風に生かしているという。

ビールが大半を占めていた日本の市場に、新しいビール文化を切り開いたのだ。ヤッホーでは「ビールに味を！人生に幸せを！」というミッションを掲げる。ビールの開発やプロモーションのプロジェクには、部門にかかわらず参加することができ、多様な視点を交えての議論するのが常だ。「知的な変わり者」の融合が新たなビールの文化や楽しみ方を生み出す原動力になると歓迎される。私の史学科での「過去の事象や人々の暮らしに思いをはせる」経験も、お客様がヤッホーのビールとともに過ごす時間への感情移入に生きているし、歴史を学んだ身として、自分たちで0からビールやファンコミュニティの歴史を創り出していくことに面白さを感じている。



オフィスにはファン手作りのグッズや色紙が並ぶ

先輩に
歴
クラフトビールに生かす
歴史に思いをはせた経験

ヤッホーブルーイング 柳下桂一郎さん（平31卒・127期史）

令和3年度卒業生アンケート調査

約8割が大学生生活満足もコロナ禍前より不満足増

国学院大学が例年、3月の卒業証書授与と併せ実施している卒業生アンケート調査の結果がまとまった。この調査は、学修成果や大学生生活の満足度など5項目全18問で実施し、学部・神道学専攻科・別科神道専修の卒業生2537人中2180人が回答した（回答率85.9%）。

大学生生活の満足度は「とても満足」「満足」「やや満足」との回答が約8割となった一方で、「やや不満足」「不満足」「とても不満」との回答が約2割とコロナ禍前の令和元年度調査、2年度調査の約16%から増加し、満足度の低下を示す結果

となった。

学修成果については、学部学科の学修と成長した力の関連性も表れた。一例では、日本に対する理解が深まったかを問う設問で日本文・史・神道文化学科の約7割（全学46.9%）が「あてはまる」と回答した。全学では、思考力・判断力・表現力が身についたかを問う設問で約9割が「あてはまる」「少しあてはまる」と回答。4年間での成長を実感している結果となった。

自由記述回答では、身に付いた力として「オンライン授業となったことでのスケジュール管理能力

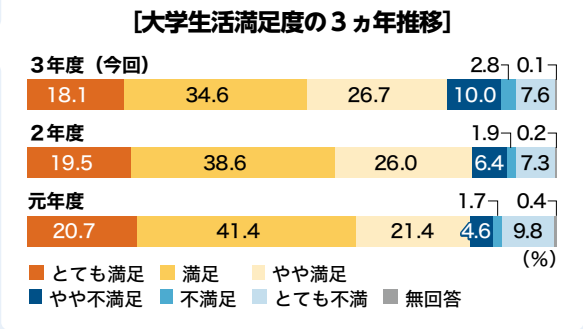
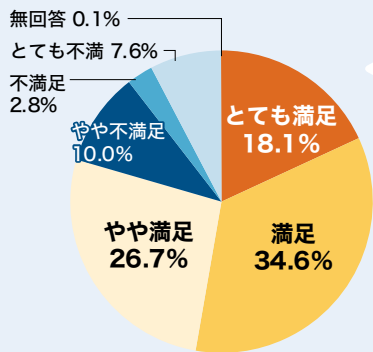
力」「1人でも目標に向かい努力する力」など学修に向き合い成長した点が寄せられた。大学に対しては「この大学でしか培えないものがあった」「意欲のある学生を応援してくれる」という声の一方、コロナ禍での「大学からの情報発信の遅さ」「学生目線に合わせた大学運営の不足」などの意見が挙がった。後輩へのアドバイスでは「興味のある分野をつきつめ続けてほしい」「悔いなく全力で楽しんでほしい」といった声が寄せられた。

調査結果は本学ホームページで公開している＝QRコード。



主なアンケート調査の結果（全体）

大学生生活にどの程度満足しているか



自由記述欄コメント（一部・抜粋）

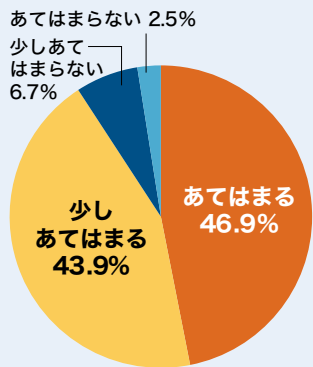
▶後輩へのアドバイス

- 4年間は長いようで短い。興味のある分野をつきつめ続けて楽しい学生生活にしてほしい
- 他学部の授業も面白いものが多い。広い視野や興味を持ちさまざまな授業を受けてほしい
- コロナ禍で2年間あってなかったようなもの。現役生は悔いなく友人関係などは大切にしてほしい

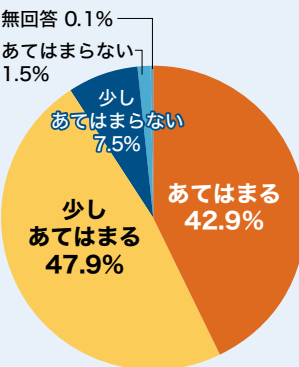
▶大学への意見

- 国学院ではたくさんのことを学べたし、いろいろな見方を知ることができた
- 授業はこの大学でしか培えないものがあった
- コロナ禍での学部長からのメッセージを読んで、この大学で良かったと思った
- 学びたい意欲のある人をとことん応援してくれる大学だと思う
- 大学側の判断、情報発信が遅く、いつも困った
- 学生目線に合わせた大学運営を心がけてほしい
- コロナ禍で学生生活はあまり充実したものではなかった。部活動などもっと積極的に学校側から支援してほしいし、できたことがあったのではない

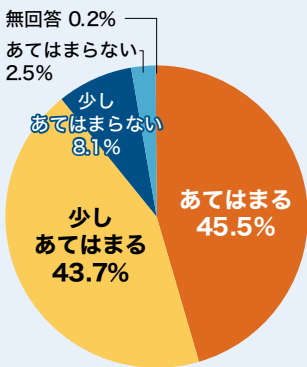
日本に対する理解が深まった



現代社会を生きていくために必要な思考力・判断力・表現力が身に付いた



他者と協働して、最適な解を導き出そうという体験が得られた



柔道部

全日本学生柔道優勝大会 4年連続ベスト16



男子第71回全日本学生柔道優勝大会が6月25、26日に日本武道館（東京都千代田区）で開催され、国学院大学柔道部は中止となった令和2年度大会を除き、4年連続でベスト16となった。優勝は東海大学で6年連続26回目。

この大会は、体重無差別の7人による団体戦で行われ、全国から62大学が参加した。同部は一回戦で清和大学（千葉）との対戦に臨み、次鋒・寺島悠太選手（健体3）が先勝すると3人目の五将・押領司龍星選手（経営4＝写真）も背負い投げからけさ固めに持ち込む合わせ技で勝利。6人目の副将・齊本研アレクサ

ンドル選手（健体4）も勝利し、3－0で快勝した。二回戦の愛知大学戦では、先鋒・後藤颯太選手（健体1）、次鋒・平山隆博選手（神文4）、五将・齊本選手がそれぞれ一本を奪い3連勝。チームに勢いをつけると副将・寺島選手、大将・騰川雄一朗選手（法3）も勝利し、5－0と圧倒する実力をみせた。

三回戦では、重量級の選手をそろえる強豪の天理大学（奈良）と対戦し1－4で敗れたものの、4人目の中堅・押領司選手は90kg級ながら、二階級上となる100kg超級の選手に得意の背負い投げを決め、技ありを奪い勝利する活躍をみせた。